



リサナメント * TAKARAZUKA 通信

NO.12 2006 / 10 / 3

厳しい暑さの夏に耐えること数十日、ようやく秋が巡ってまいりました。大気の澄んだ、空の美しい季節、いかがお過ごしでしょうか。よい気候のなか、体も頭もそして胃袋も活発に動かして、自分の体内にさまざまな栄養を蓄える秋にいたしましょう。

*「第2回すみれの花を愛するまちのシンポジウム」を開催します!!

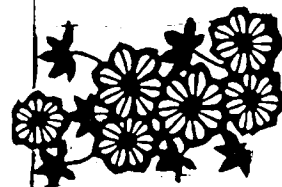
一昨年にリサナメント宝塚が主催して好評だったシンポジウムの第2弾です。今回は《ラストステージは自分らしく》のタイトルのもと、人生の秋をどう素敵に自分らしく生き抜こうとするのか、そしてそのための方策を、皆さまと一緒に考えてみたいと思っています。宝塚市教育長・園田学園大学教授の田辺真人氏を迎えての基調講演のあと、浄土宗大蓮寺住職で、大蓮寺・エンディングを考える市民の会代表の秋田光彦師、高齢社会を良くする女性の会・大阪の山田芳子さんのお二人に当会の今井信行医師が加わっての鼎談、それに加えて、元宝塚歌劇団月組の桐さと実さんのコンサートと、リサナメントらしく盛りだくさんの内容です。前回おいでくださった方も、はじめてという方も、ぜひぜひご参加をお待ちしています。詳しくはチラシ（申込用紙つき）をご覧ください。



第2回すみれの花を愛するまちのシンポジウム

【ラストステージは自分らしく】

日時 2006年10月28日(土) 午後2時~5時
会場 宝塚大劇場 3F エスプリホール
参加費 3000円 定員 150名



季節の句

*「つながり力」でつながる社会を・・・秋田師とは人生の最期をテーマにして、お坊さんのお話とは安直な、と思われる方もいらっしゃるかもしれません。秋田師は大阪市天王寺区の寺町で、人と人のつながり、命と芸術のつながりをモットーにして、さまざまな活動を模索し、実行なさっている方です。地域の中での寺という「場」、それを生かそうと、塔頭の應典院を提供して見た目も内容も新しい催しを試みていらっしゃいます。私たちにも、目からウロコの落ちるようなヒントをいただけそうです。

補聴器を持つ人秋を聴きにけり
・・・阿波野青畝
隠れている季語は「秋の声」。風や雨の音、草木のそよぎなど、秋の情趣を感じさせるものの音だけでなく、何となく聴覚に感じられる無声のものも含まれる。作者が幼時より難聴だったことを思うと、補聴器の貢献には多大なものが。人生に対する終生の肯定に心がなごむ。

